

JATA17-26
2017年9月29日

「2017年9月期(第2回) 旅行市場動向調査」

一般社団法人 日本旅行業協会(JATA)では、JATA会員各社および中連協会各社へ調査モニターへの登録を依頼し、登録のあった601社を対象として、四半期ごとに「旅行市場動向調査」を実施しております。今回、9月期の調査がまとまりましたのでお知らせします。

●海外旅行DIは、3ヶ月前(-20)より 4ポイント上昇し-16へ

※業態別では、海外旅行ホールセラーが前期より14ポイント増で回復

※方面別では、ヨーロッパは順調に回復基調。アジアは上位で8ポイント増で更に上昇しプラス9へ

※顧客層別では、ファミリー層が前期より13ポイント増で大幅な上昇

○3ヶ月後の見通しは、2ポイント上昇し-14

※オセアニアは前期より7ポイント増、ヨーロッパは更に回復し5ポイント増で推移

●国内旅行DIは、3ヶ月前(2)より-13ポイント下降し-11へ

※業態別では、総合旅行会社が33ポイント減と下落が目立つが、国内旅行ホールセラーは33ポイント増と大幅な上昇傾向

※方面別では、北海道13ポイント増、京阪神6ポイントで回復傾向、甲信越3ポイント増と緩やかな伸びを見せる

※団体旅行では、全体的に下落傾向にあり、特に職場旅行15ポイント減、教育旅行10ポイント減、招待・報奨旅行8ポイント減が目立つ

※個人旅行では、ファミリーが大幅に20ポイント増で大幅に回復

○3ヶ月後の見通しは、15ポイント上昇し4

※関東、近畿、山陰などでやや回復するも、再び下落。北海道の急落が顕著

●訪日旅行DIは、3ヶ月前(2)より-2ポイント下降しゼロへ

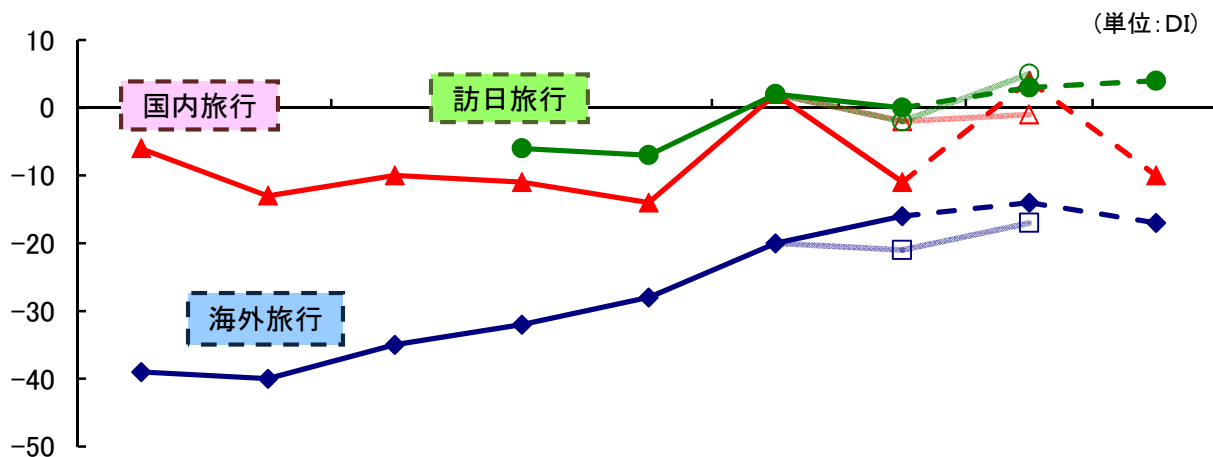
※方面別では、北海道19ポイント増、近畿11ポイント増、東海10ポイント増で方面は回復傾向

※顧客層別では、FIT、団体、MICEと全体的に需要は上昇傾向

※出身地別では、中国は13ポイント増、韓国は12ポイント増、南米は7ポイント増で大幅に回復傾向

○3ヶ月後の見通しは、3ポイント上昇し3

※関東、沖縄は下落を見せるもののその多方面では回復傾向



	1年半前 (1~3月)	1年 3ヶ月前 (4~6月)	1年前 (7~9月)	9ヶ月前 (10~12月)	6ヶ月前 (1~3月)	3ヶ月前 (4~6月)	現況 (7~9月)	3ヶ月後 (10~12月)	6ヶ月後 (1~3月)
海外旅行全般	-39	-40	-35	-32	-28	-20	-16 ※-21	-14 ※-17	-17
国内旅行全般	-6	-13	-10	-11	-14	2	-11 ※-2	4 ※-1	-10
訪日旅行全般	-	-	-	-6	-7	2	0 ※-2	3 ※5	4

※2017年6月期調査見通し数値

■旅行市場動向調査について

一般社団法人 日本旅行業協会(JATA)では、JATA会員および中連協会員各社へ調査モニターへの登録を依頼し、会員1182社中、登録のあった601社を対象として、四半期ごとに「旅行市場動向調査」を実施し、その結果を発表しております。

「旅行市場動向調査」は、現況・先行き(3ヵ月後)についてのアンケートを実施し、旅行市場の動向を把握することを目的としております。

調査では各質問事項に対し「良い」「普通」「悪い」「取り扱っていない」で評価を求め、回答数から「取り扱っていない」(無回答を含む)の回答を除いたものを母数として各回答のシェアを算出し、「良い」を選んだ割合(%)から「悪い」を選んだ割合(%)を引いて、「DI」(=Diffusion Index ディフュージョン・インデックス)という景気動向指数に加工して発表しています。

DI値の範囲は、全て良い(100)から、全て悪い(-100)の間の評価となります。

◆調査概要

調査地域	： 全国
調査対象	： J A T A 会員各社、中連協会員各社の経営者など
調査方法	： インターネット調査
調査期間	： 2017年8月3日(木)～8月27日(日)
設定数	： 601社
回収数	： 310社
回収率	： 51.6%

◆業態別区分について

「旅行市場動向調査」では、各業況を業態別に分析しています。

各業態の定義と今回調査での回答件数は下記の表の通りとなっています。

業態名	定義	社数	比率
総合旅行会社	全国にネットワークを持ち、全分野に商品を持つ大規模な旅行会社	33	10.6%
海外旅行 ホールセラー	海外旅行を専業とするホールセラー会社	19	6.1%
海外旅行系 旅行会社	旅行業の取扱額が50億円以上で、うち海外旅行の取扱額が80%以上の旅行会社	14	4.5%
国内旅行 ホールセラー	国内旅行を専業とするホールセラー会社	8	2.6%
リテラー1	上記以外で旅行業の取扱額が30億円以上の旅行会社	33	10.6%
リテラー2	上記以外で旅行業の取扱額が30億円未満の旅行会社	117	37.7%
インハウス	親会社の業務渡航などを中心に行っている旅行会社	40	12.9%
ネット系 旅行会社	上記以外でインターネット販売が中心である会社	12	3.9%
訪日旅行系 旅行会社	上記以外で訪日旅行販売が中心である会社	34	11.0%

*ホールセラー … パッケージツアーの企画・販売を専門に行う旅行会社

この資料についてのお問い合わせは、JATA広報室までお願いします。
なお、本データはJATAホームページ <http://www.jata-net.or.jp> でご覧になれます。
TEL : (03)3592-1244

■海外旅行全般の業況について

現況、3ヶ月期の見通しより好調で、前期より4ポイント上昇し-16へ。
 ヨーロッパは順調に回復基調。
 アジアは上位で更に上昇。中国も低位であるが大きく回復。

総合

業態別では海外旅行ホールセラーが前期より14ポイント増で回復。好調であったネット系旅行会社は、84ポイント減で-16から-100へ大幅に下降。方面別ではヨーロッパは好調に回復し11ポイント増で(-23)、中国はマイナスで推移しているが、11ポイント増(-49)で回復傾向。韓国も2ポイント増で(-70)と低位で推移。ミクロネシアは社会情勢の影響を受け10ポイント減(-37)で大きく下降。アメリカ・カナダも4ポイント減(-28)へ。
 顧客層別では、ファミリー層が13ポイント増で大幅に上昇、OL層も8ポイント増、教育旅行も7ポイント増で回復傾向。インセンティブは5ポイント減、シニアは4ポイント減と下降傾向。

現況(7~9月) 3ヶ月前の見通しより回復基調。特にテロの影響なくヨーロッパは順調に回復。

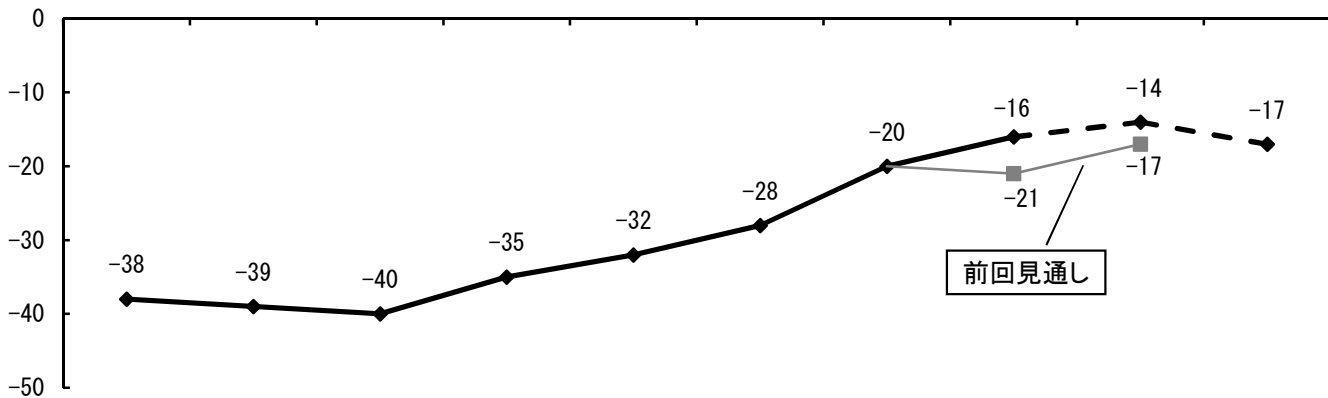
- ・近距離アジアの台湾および香港は、前年を大きく上回り好調(第1種/総合旅行会社)
- ・欧州方面の渡航需要は一定に安定し回復基調である。(第1種/海外ホールセラー)
- ・3月の旅行会社が倒産以降ウェブのアクセス数が下がったが、8月に入って回復(第1種/リテラー1)
- ・グアムの影響で学生旅行、視察旅行が延期で苦戦(第3種/リテラー2)
- ・海外旅行全般は3ヶ月前(4~6月)より4ポイント上昇し、-16。

3ヵ月後、6ヵ月後の見通し 大きな変動なく近似値で推移。ヨーロッパ/オセアニアは順調に回復。

- ・新潟空港から台湾線が週2便運航し台湾への渡航者が増えている。(第1種/総合旅行会社)
- ・運休していた松山~ソウル便が11月から週3便就航を予定し韓国需要へ期待(第1種/総合旅行会社)
- ・7月以降は例年並み、1-3月は全く動きはない(第1種/リテラー2)
- ・3ヵ月後(10~12月)は2ポイント上昇し-14。6ヵ月後(1~3月)は1ポイント下落し-17。

N:有効回答数
(N=238)

(単位: D I)



※2017年6月期調査見通し数値

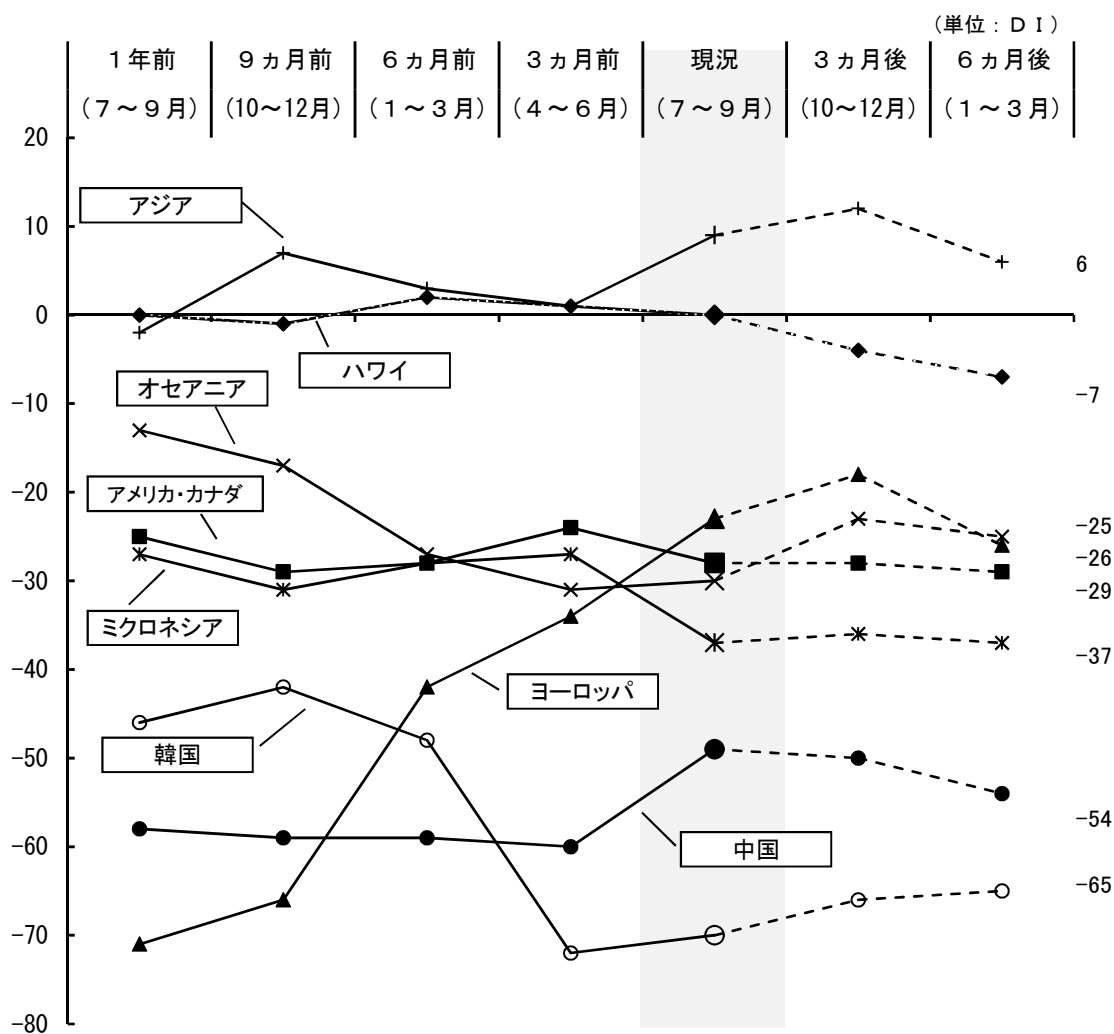
	1年半前 (1~3月)	1年3ヵ月前 (4~6月)	1年前 (7~9月)	9ヵ月前 (10~12月)	6ヵ月前 (1~3月)	3ヵ月前 (4~6月)	現況 (7~9月)	3ヵ月後 (10~12月)	6ヵ月後 (1~3月)
総合旅行会社	-71	-63	-49	-42	-14	11	10	13	16
海外旅行ホールセラー	-53	-48	-44	-41	-40	-35	-21	-15	-21
海外旅行系旅行会社	-18	-6	-27	8	-16	-9	-14	-7	7
リテラー1	-39	-38	-40	-23	-19	9	3	6	-4
リテラー2	-36	-39	-33	-35	-37	-34	-26	-26	-30
インハウス	-22	-40	-25	-20	-17	-15	-12	-15	-28
ネット系旅行会社	-	-50	-33	-50	-50	-16	-100	-67	-33

◆海外旅行の需要動向（方面別）

現況は、ヨーロッパは順調に回復基調。
アジアは上位に位置し、更に上昇傾向へ。中国も低位であるが大きく回復。

- ・ 現況は、ヨーロッパは順調に回復し11ポイント増で(-23)。中国はマイナスで推移するが、11ポイント増(-49)で回復傾向。アジアは上位に位置し、更に8ポイント増(+9)で回復傾向。韓国はマイナスで推移し2ポイント増で(-70)。ミクロネシアは社会情勢の影響により前期より10ポイント減で(-37)、併せてアメリカ・カナダも前期より4ポイント減で(-28)となった。
- ・ 3ヵ月後(10~12月)は、オセアニアは前期より7ポイント増で(-23)、ヨーロッパは順調に回復し5ポイント増で(-18)、韓国は回復を見込み4ポイント増で(-66)、アジアも3ポイント増で(+12)、ハワイは4ポイント減で(-4)、アメリカ・カナダ、ミクロネシア、中国は大きな変動なく推移。

N:有効回答数
(N=238)



(単位: D I)

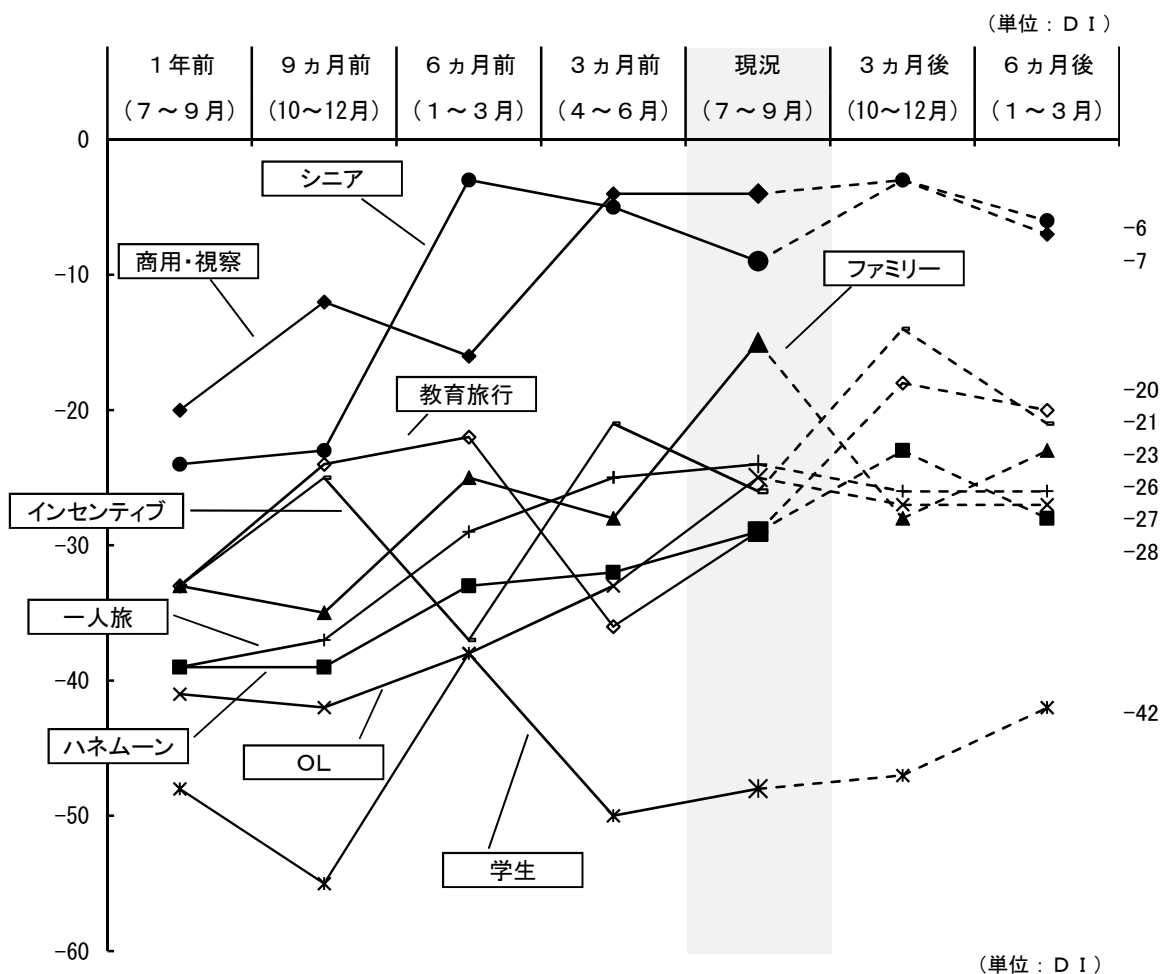
	1年前 (7~9月)	9ヵ月前 (10~12月)	6ヵ月前 (1~3月)	3ヵ月前 (4~6月)	現況 (7~9月)	3ヵ月後 (10~12月)	6ヵ月後 (1~3月)
ハワイ	0	-1	2	1	0	-4	-7
アメリカ・カナダ	-25	-29	-28	-24	-28	-28	-29
ヨーロッパ	-71	-66	-42	-34	-23	-18	-26
オセアニア	-13	-17	-27	-31	-30	-23	-25
ミクロネシア	-27	-31	-28	-27	-37	-36	-37
アジア	-2	7	3	1	9	12	6
中国	-58	-59	-59	-60	-49	-50	-54
韓国	-46	-42	-48	-72	-70	-66	-65

◆海外旅行の需要動向（顧客層別）

現況は、ファミリー層が前期より13ポイント増で大幅な上昇
 OLおよび教育旅行も上昇し回復傾向。
 3か月後は、インセンティブ、教育旅行は上昇、ファミリーは下降を推移

- ・ 現況は3か月前(4～6月)ファミリーは13ポイント増(-15)で大幅に回復。OLが8ポイント増(-25)、教育旅行も7ポイント増(-29)で回復傾向。ハネムーンも3ポイント増で(-29)へ。一人旅、商用・視察、学生は大きな変動なく近似値で推移。順調であったインセンティブは5ポイント減(-26)で下降傾向に。シニアは1年前の同時期より回復しているが、4ポイント減で(-9)へ下降。
- ・ 3か月後(10～12月)は、インセンティブが12ポイント増、教育旅行も11ポイント増で回復を見込む。シニア、ハネムーン層も6ポイント増で回復。ファミリーは夏季休暇が終り、13ポイント減で大きく下降を見込む。OLおよび一人旅は2ポイント減で大きな変動ではないが緩やかに下降。商用・視察および学生は近似値で推移。

N:有効回答数
 (N=238)



(単位：D I)

	1年前 (7～9月)	9カ月前 (10～12月)	6カ月前 (1～3月)	3カ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3カ月後 (10～12月)	6カ月後 (1～3月)
ハネムーン	-39	-39	-33	-32	-29	-23	-28
ファミリー	-33	-35	-25	-28	-15	-28	-23
OL	-41	-42	-38	-33	-25	-27	-27
学生(教育旅行を除く)	-48	-55	-38	-50	-48	-47	-42
シニア(60歳以上)	-24	-23	-3	-5	-9	-3	-6
一人旅	-39	-37	-29	-25	-24	-26	-26
インセンティブ(*)	-33	-25	-37	-21	-26	-14	-21
商用・視察	-20	-12	-16	-4	-4	-3	-7
教育旅行	-33	-24	-22	-36	-29	-18	-20

■国内旅行全般の業況について

現況は前期より13ポイント下落し、再びマイナスへ。
北海道、京阪神で上昇するものの、九州や関東など豪雨災害が起きたエリアの下落が大きい。
ファミリーでの個人旅行が大きく上昇。
3ヵ月後は全体で15ポイント上昇しプラス4と回復の兆し。

総合

業種別では、総合旅行会社が33ポイント減と下落が目立つが、その一方で国内旅行ホールセラーは33ポイント増と大幅な上昇傾向。方面別ではほとんどの地域が下落を見せる中、北海道13ポイント増、京阪神6ポイント、甲信越3ポイント増と緩やかな伸びを見せる。団体旅行の区分では、職場は15ポイント減、教育は10ポイント減、招待・報奨は8ポイント減、サークル・親睦は2ポイント減と続き全体的に下落傾向。個人旅行ではファミリーのみが20ポイント増と上昇するが、シニアは9ポイント減、OL、一人旅は4ポイント減と下降が目立つ。

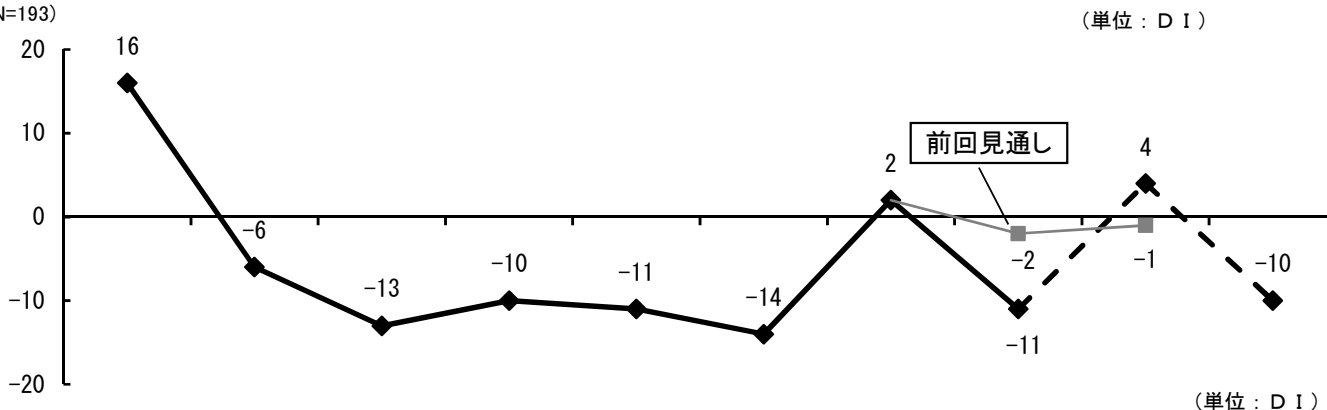
現況(7～9月) 北海道の需要が顕著で、ファミリーでの個人旅行が伸びを見せる。

- ・豪雨の影響が顕著で九州方面が低調。関西は若干上向きだが、関東も含め引き続き低調。(第1種／総合旅行会社)
- ・夏場は北海道及び沖縄の需要が強い。家族連れが多い。(第1種／インハウス)
- ・秋に集中している傾向が見受けられる。(第1種／海外旅行系旅行会社)
- ・国内旅行全般は3ヵ月前(4～6月)より13ポイント下落し、-11。

3ヵ月後、6ヵ月後の見通し 関東、近畿、山陰などでやや回復するも再び下落。北海道の急落が顕著

- ・九州方面が未だ需要が戻りきらない。北海道新幹線開業の反動により、北海道方面が前年に比較し落ち込んでいる。(第1種／総合旅行会社)
- ・観光バスの法整備により長距離移動が減少、近場の新しい観光地の開拓が必要。(第1種／リテラー2)
- ・宿泊を伴う国内旅行の消費が落ちている。(第1種／リテラー1)
- ・3ヵ月後(10～12月)は15ポイント上昇し+4。6ヵ月後(1～3月)は1ポイント上昇し-10。

N:有効回答数
(N=193)



2年前 (7～9月)	1年半前 (1～3月)	1年 3ヵ月前 (4～6月)	1年前 (7～9月)	9ヵ月前 (10～12月)	6ヵ月前 (1～3月)	3ヵ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3ヵ月後 (10～12月)	6ヵ月後 (1～3月)
16	-6	-13	-10	-11	-14	2	-11	4	-10
							※-2	※-1	

※2017年6月期調査見通し数値

	1年半前 (1～3月)	1年 3ヵ月前 (4～6月)	1年前 (7～9月)	9ヵ月前 (10～12月)	6ヵ月前 (1～3月)	3ヵ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3ヵ月後 (10～12月)	6ヵ月後 (1～3月)
総合旅行会社	4	-13	-13	-18	-19	18	-15	4	0
国内旅行ホールセラー	-83	-20	-28	-43	0	-33	0	43	-29
リテラー1	0	-34	-21	-39	-19	20	0	20	0
リテラー2	-7	-11	-9	-3	-16	5	-16	3	-15
インハウス	-2	-8	8	-5	7	-7	-3	2	-3
ネット系旅行会社	-	-33	-44	-33	-67	-43	-27	-46	-28

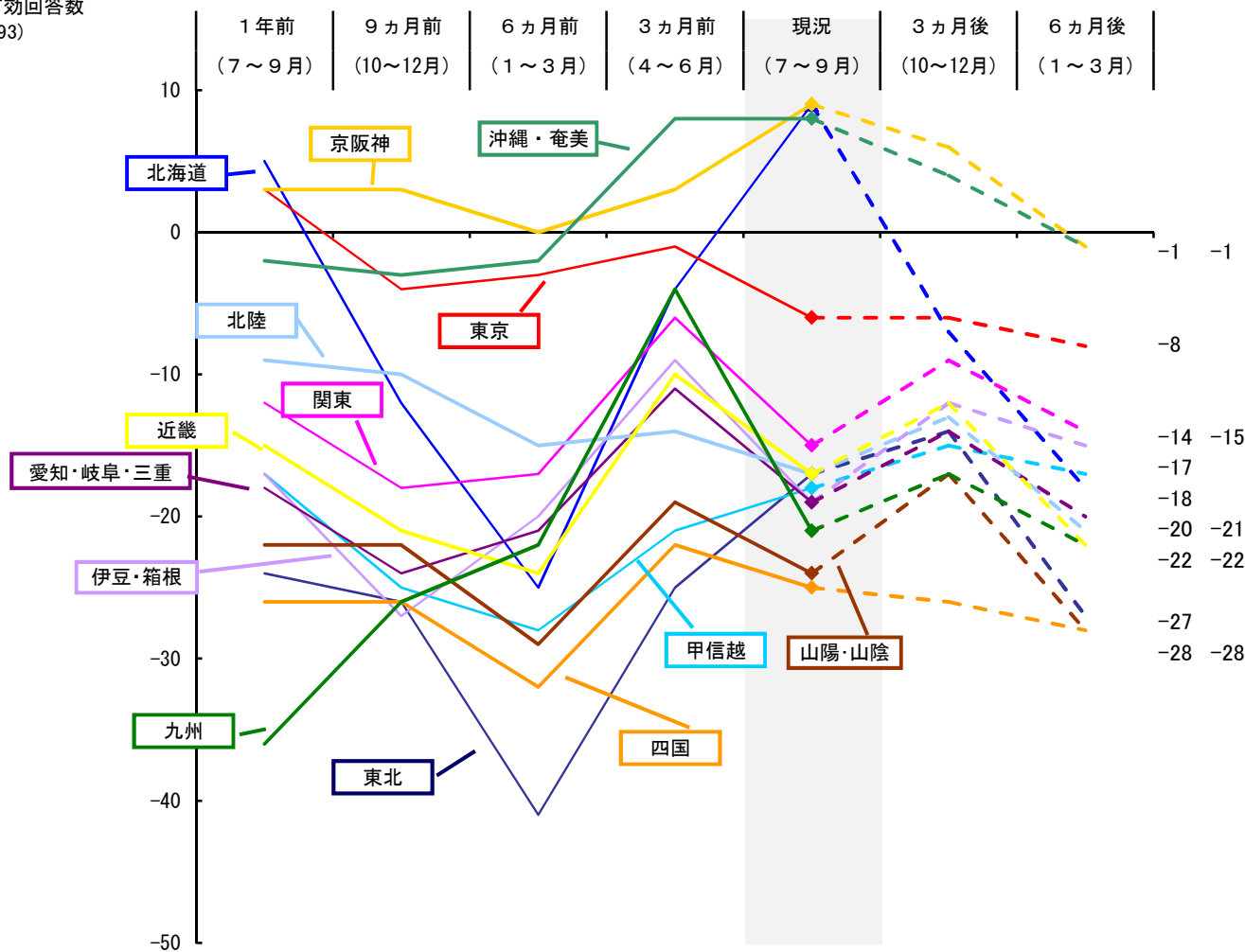
◆国内旅行の需要動向（方面別）

現況は現況はほとんどの方面において下落するも、北海道の上昇が顕著に伺える。
 沖縄・奄美は伸びを見せられずにいる。

- ・ 現況は3カ月前(4～6月)に比べ、特に北海道は13ポイント増、京阪神は6ポイント増と他方面と比べ顕著な伸びが際立つ。甲信越は3ポイント増で緩やかに回復。沖縄・奄美は伸びを見せられず横ばい。九州の17ポイント減をはじめ、関東は9ポイント減、近畿は7ポイント減と全体的に下落が目立つ。
- ・ 3カ月後(10～12月)は、伊豆・箱根や山陽・山陰では7ポイント増、関東は6ポイント増、近畿は5ポイント増と多くの方面で回復を見せる。東京は横ばいで低迷を続ける。北海道は16ポイント減と大きく下落し、沖縄・奄美は4ポイント減、京阪神は3ポイント減と下降傾向。

(単位：D I)

N:有効回答数
(N=193)



(単位：D I)

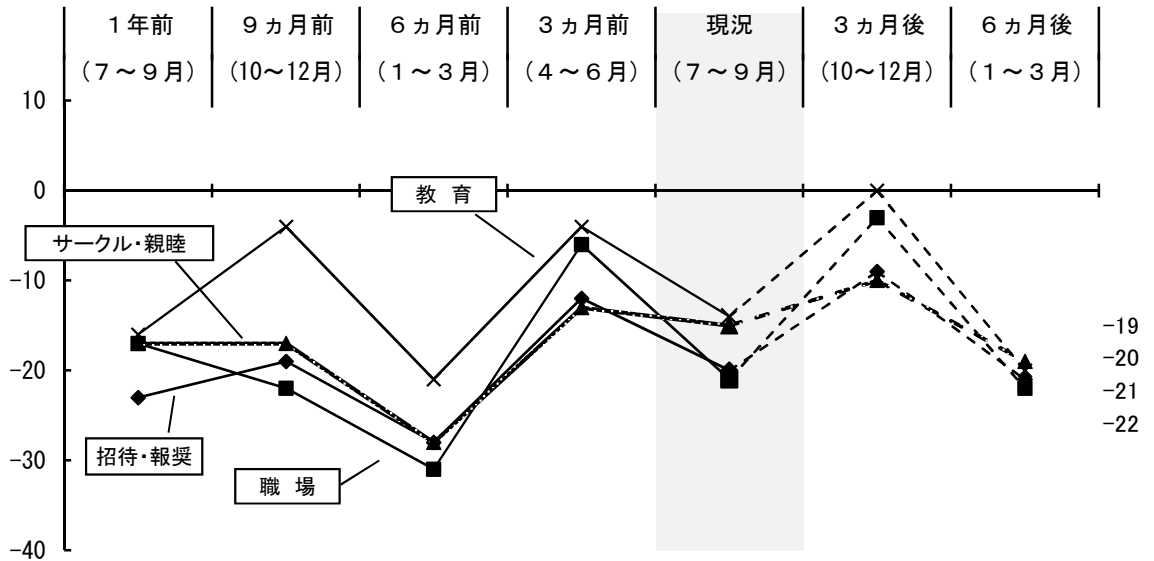
	1年前 (7～9月)	9カ月前 (10～12月)	6カ月前 (1～3月)	3カ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3カ月後 (10～12月)	6カ月後 (1～3月)
北海道	5	-12	-25	-4	9	-7	-18
東北	-24	-26	-41	-25	-17	-14	-27
東京(TDR・横浜を含む)	3	-4	-3	-1	-6	-6	-8
関東	-12	-18	-17	-6	-15	-9	-14
甲信越	-17	-25	-28	-21	-18	-15	-17
伊豆・箱根(静岡を含む)	-17	-27	-20	-9	-19	-12	-15
愛知・岐阜・三重	-18	-24	-21	-11	-19	-14	-20
北陸	-9	-10	-15	-14	-17	-13	-21
京阪神(京都・大阪・USJ)	3	3	0	3	9	6	-1
近畿	-15	-21	-24	-10	-17	-12	-22
山陽・山陰	-22	-22	-29	-19	-24	-17	-28
四国	-26	-26	-32	-22	-25	-26	-28
九州	-36	-26	-22	-4	-21	-17	-22
沖縄・奄美	-2	-3	-2	8	8	4	-1

◆国内旅行の需要動向（団体旅行）

- ・ 現況は3カ月前(4～6月)に比べ、すべての区分で下落。職場は15ポイント減、教育は10ポイント減、招待・報奨は8ポイント減、サークル・親睦は2ポイント減と続き下降傾向を示した。
- ・ 3カ月後(10～12月)は、職場は18ポイント増、教育は14ポイント増、招待・報奨は11ポイント増、サークル・親睦は5ポイント増と全体的に回復を見せる。

N:有効回答数
(N=193)

(単位: D I)



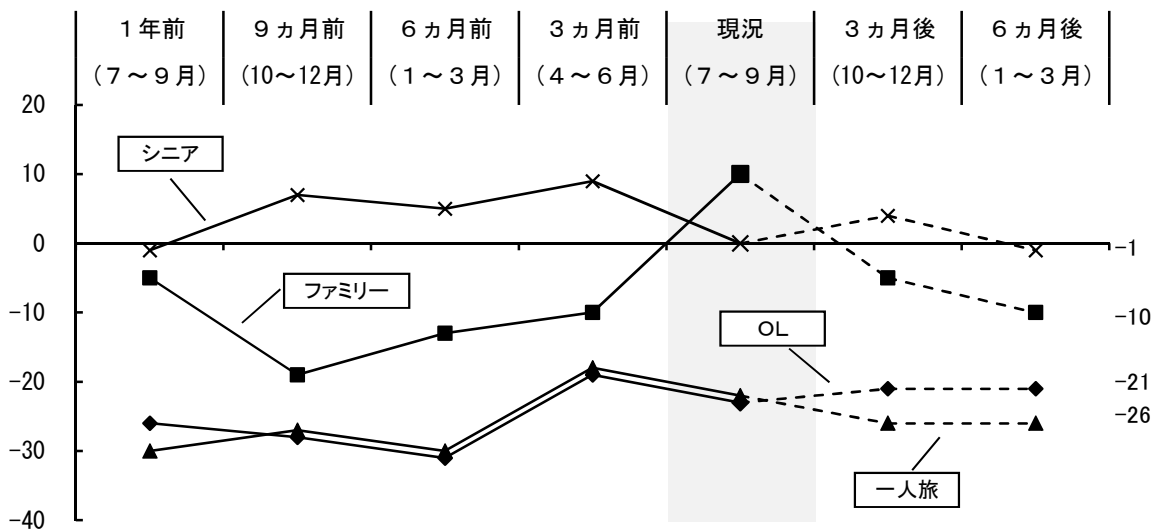
	1年前 (7～9月)	9カ月前 (10～12月)	6カ月前 (1～3月)	3カ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3カ月後 (10～12月)	6カ月後 (1～3月)
招待・報奨	-23	-19	-28	-12	-20	-9	-21
職場	-17	-22	-31	-6	-21	-3	-22
サークル・親睦	-17	-17	-28	-13	-15	-10	-19
教育	-16	-4	-21	-4	-14	0	-20

◆国内旅行の需要動向（個人観光旅行）

- ・ 現況は3カ月前(4～6月)に比べ、ファミリーが20ポイント増と大きく上昇。シニア9ポイント減、OL、一人旅は4ポイント減と、その他客層では緩やかに下降傾向を示した。
- ・ 3カ月後(10～12月)は、シニアが4ポイント増でプラスに推移。OLは2ポイント増とやや回復。ファミリーは15ポイント減でプラスからマイナスへ大きく下落し、一人旅は4ポイント減と下降。

N:有効回答数
(N=193)

(単位: D I)



	1年前 (7～9月)	9カ月前 (10～12月)	6カ月前 (1～3月)	3カ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3カ月後 (10～12月)	6カ月後 (1～3月)
シニア (60歳以上)	-1	7	5	9	0	4	-1
ファミリー	-5	-19	-13	-10	10	-5	-10
OL	-26	-28	-31	-19	-23	-21	-21
一人旅	-30	-27	-30	-18	-22	-26	-26

■訪日旅行全般の業況について

現況は3カ月前の見通しを上回るものの、2ポイント減に留まった。
北海道、近畿などで需要の回復を見せ、九州や関東では下落が見られる。
顧客種別では、全体的に需要は上昇傾向。

総合

全体的に下降傾向の中、ネット系旅行会社が74ポイント増と大幅な上昇を見せる。方面別では、北海道は19ポイント増でプラス8、近畿は11ポイント増でマイナス11、東海は10ポイント増でマイナス14と回復傾向。一方で九州は8ポイント減、関東は7ポイント減と下落。顧客種別では、全体的に近似値で推移。出身国別では、中国、韓国、南米が大幅な伸びを見せ上昇傾向。一方、台湾、香港に加え北米の落ち込みが目立つ。

現況(7～9月)

関東、沖縄は下落を見せるもののその多方面では回復傾向

- ・インバウンド全体的に地方への訪問が増えている。体験型観光がとても人気。(第1種/総合旅行会社)
- ・北海道の人気は変わっていないことと、ゴールデンコースの需要も堅調(第1種/リテラー2)
- ・米朝問題による来訪の取消が多発(第2種/リテラー2)
- ・訪日旅行全般は3カ月前(4～6月)より2ポイント下落し、0。

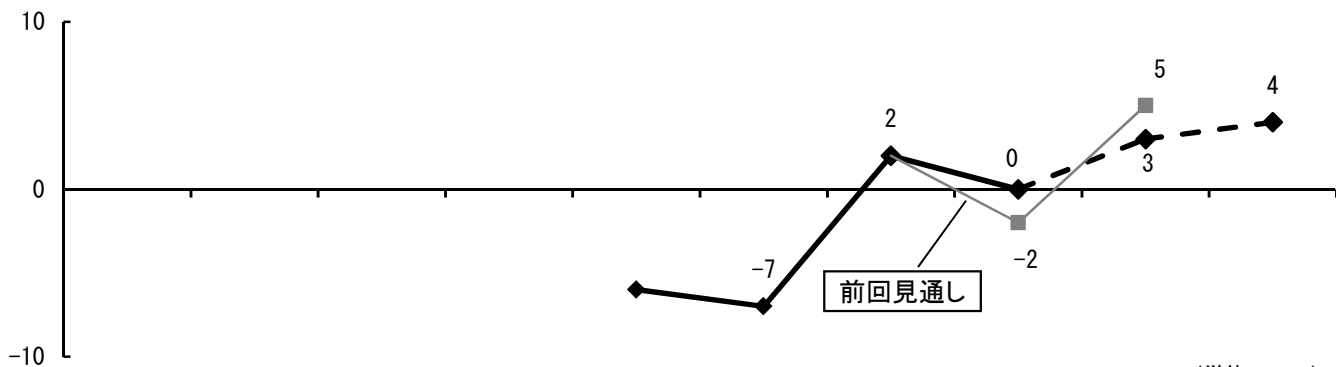
3カ月後、6カ月後の見通し

北海道、九州が回復傾向にある

- ・北朝鮮問題への懸念が悪影響を与える可能性がある。(第2種/訪日旅行系旅行会社)
- ・ゴールデンルート以外の新ルートの要望多し。MICEの取り扱いが増えている。(第2種/訪日旅行系旅行会社)
- ・完全にFIT化してきており、状況が把握しにくくなっている。(第3種/訪日旅行系旅行会社)
- ・3カ月後(10～12月)は3ポイント上昇し+3。6カ月後(1～3月)は4ポイント上昇し+4。

(単位：DI)

N:有効回答数
(N=125)



(単位：DI)

2年前 (7～9月)	1年半前 (1～3月)	1年 3カ月前 (4～6月)	1年前 (7～9月)	9カ月前 (10～12月)	6カ月前 (1～3月)	3カ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3カ月後 (10～12月)	6カ月後 (1～3月)
-	-	-	-	-6	-7	2	0	3	4
							※-2	※5	

※2017年6月期調査見通し数値

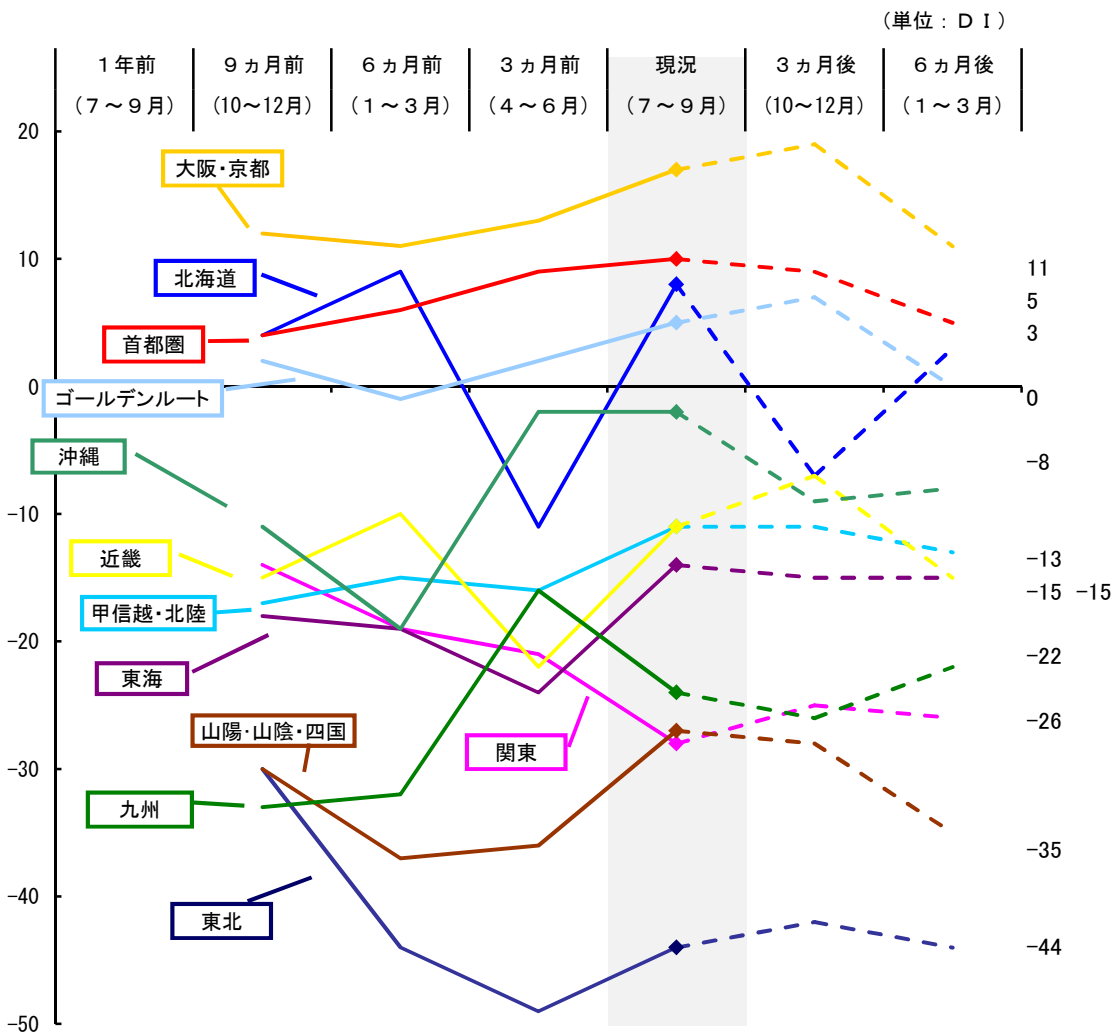
	1年半前 (1～3月)	1年 3カ月前 (4～6月)	1年前 (7～9月)	9カ月前 (10～12月)	6カ月前 (1～3月)	3カ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3カ月後 (10～12月)	6カ月後 (1～3月)
総合旅行会社	-	-	-	7	16	30	19	23	19
リテラー1	-	-	-	-18	-12	18	-22	-7	7
リテラー2	-	-	-	-10	-21	-3	-24	-17	-10
インハウス	-	-	-	0	-25	5	0	10	-5
ネット系旅行会社	-	-	-	25	100	-34	40	40	60
訪日旅行系旅行会社	-	-	-	-13	-10	-11	-3	-18	-10

◆訪日旅行の需要動向（方面別）

現況は北海道は19ポイント増で上昇しプラス8、近畿は11ポイント増でマイナス11と回復傾向で、依然として大阪・京都、首都圏、ゴールデンルートは上位に位置し上昇傾向で人気を博している。
 関東、九州は10ポイント近く下落。
 3ヵ月後は上位大阪・京都は2ポイント増で依然と上昇傾向。北海道は15ポイント減、沖縄も7ポイント減と大きく下落。

- ・ 現況は3ヵ月前(4～6月)に比べ、北海道は19ポイント増、近畿は11ポイント増、東海は10ポイント増、山陽・山陰・四国は9ポイント増と大きく上昇。東北、甲信越・北陸は5ポイント増、上位の大阪・京都は4ポイント増、ゴールデンルートは3ポイント増、首都圏は1ポイント増と緩やかに上昇。沖縄は横ばいでマイナスを推移。九州は8ポイント減、関東は7ポイント減で下降傾向。
- ・ 3ヵ月後(10～12月)は、近畿は4ポイント増と伸びを見せ、上位の大阪・京都、ゴールデンルートは2ポイント増と緩やかに上昇。関東は3ポイント増、東北は2ポイント増と回復傾向。北海道では15ポイント減と大きく下落。沖縄は7ポイント減、九州は2ポイント減、山陽・山陰・四国は1ポイント減とその他方面でも下降が伺える。

N:有効回答数
(N=125)



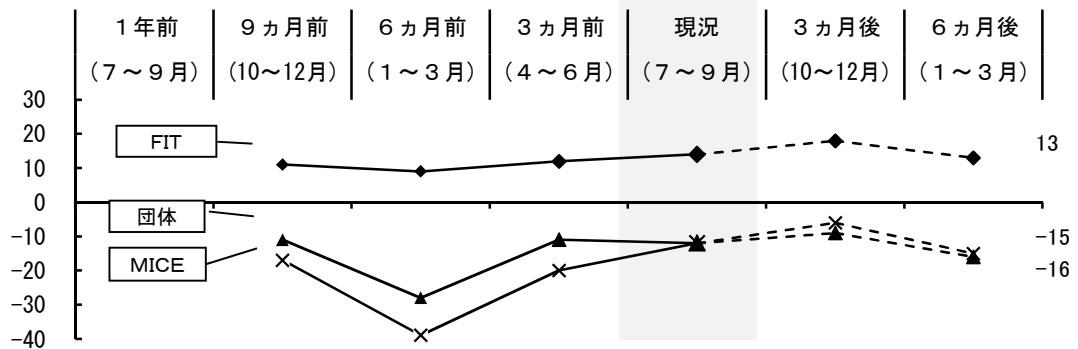
	1年前 (7～9月)	9ヵ月前 (10～12月)	6ヵ月前 (1～3月)	3ヵ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3ヵ月後 (10～12月)	6ヵ月後 (1～3月)
北海道	-	4	9	-11	8	-7	3
東北	-	-30	-44	-49	-44	-42	-44
関東	-	-14	-19	-21	-28	-25	-26
ゴールデンルート(関東⇄関西)	-	2	-1	2	5	7	0
首都圏(TDR含む)	-	4	6	9	10	9	5
甲信越・北陸	-	-17	-15	-16	-11	-11	-13
東海	-	-18	-19	-24	-14	-15	-15
大阪・京都(USJ含む)	-	12	11	13	17	19	11
近畿	-	-15	-10	-22	-11	-7	-15
山陽・山陰・四国	-	-30	-37	-36	-27	-28	-35
九州	-	-33	-32	-16	-24	-26	-22
沖縄	-	-11	-19	-2	-2	-9	-8

◆訪日旅行の需要動向（顧客種別）

- ・ 現況は3カ月前(4～6月)に比べ、MICEは8ポイント増、FITは2ポイント増で前期より回復。団体においては、1ポイント減で緩やかに下降。
- ・ 3カ月後(10～12月)は、FITは4ポイント増で上位を維持、MICEは6ポイント増、団体は3ポイント増と全体的に上昇傾向。

N: 有効回答数
(N=125)

(単位: D I)



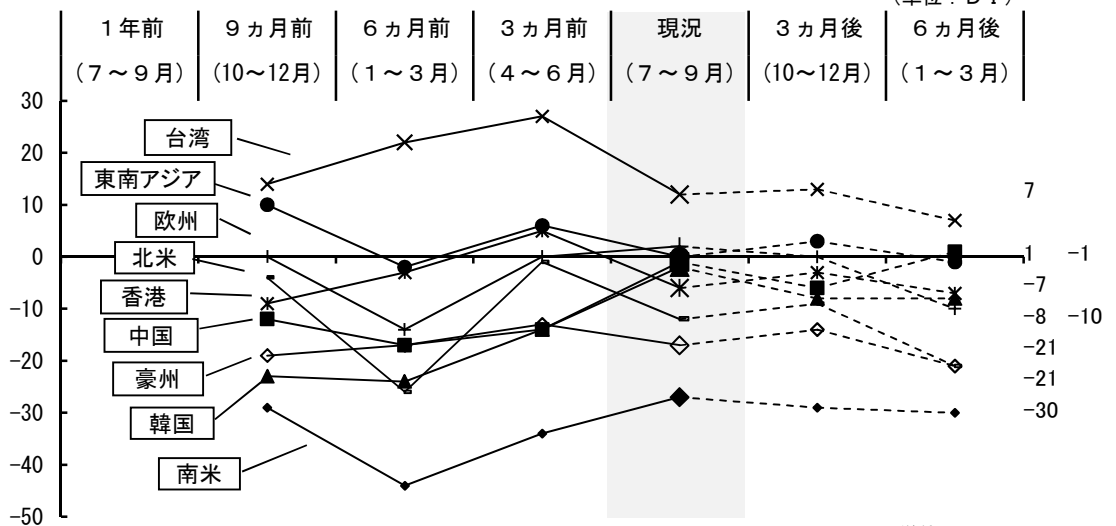
	1年前 (7～9月)	9カ月前 (10～12月)	6カ月前 (1～3月)	3カ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3カ月後 (10～12月)	6カ月後 (1～3月)
FIT	-	11	9	12	14	18	13
団体	-	-11	-28	-11	-12	-9	-16
MICE	-	-17	-39	-20	-12	-6	-15

◆訪日旅行の需要動向（出身国別）

- ・ 現況は3カ月前(4～6月)に比べ、中国13ポイント増、韓国12ポイント増、南米7ポイント増と回復傾向。欧州は2ポイント増とプラスへ推移。上位の台湾は15ポイント減、香港、北米で11ポイント減と大幅な下落が目立つ。東南アジアは6ポイント減、豪州は4ポイント減と多くの国で下降傾向。
- ・ 3カ月後(10～12月)は、香港、東南アジア、北米、豪州で3ポイント増と緩やかに上昇。上位の台湾は1ポイント増に留まる。韓国は6ポイント減、中国は5ポイント減と下降傾向。欧州、南米は2ポイント減で緩やかに下降。

N: 有効回答数
(N=125)

(単位: D I)



	1年前 (7～9月)	9カ月前 (10～12月)	6カ月前 (1～3月)	3カ月前 (4～6月)	現況 (7～9月)	3カ月後 (10～12月)	6カ月後 (1～3月)
中国	-	-12	-17	-14	-1	-6	1
韓国	-	-23	-24	-14	-2	-8	-8
台湾	27	14	22	27	12	13	7
香港	-	-9	-3	5	-6	-3	-7
東南アジア	-	10	-2	6	0	3	-1
欧州	-	0	-14	0	2	0	-10
北米	-	-4	-26	-1	-12	-9	-21
南米	-	-29	-44	-34	-27	-29	-30
豪州	-	-19	-17	-13	-17	-14	-21